

見晴公園

特徴

見晴公園は、明治35年に函館の豪商岩船峯次郎が別荘地として造成し、京都知恩院貫主が「雪の中に梅香る園」の意味の「香雪園」と命名され、現在は都市公園として隣接地を含めて整備され、また、樹木も約7300本で、道産の樹種や本州から移入された樹種もあり、森林浴、森林観察など、多くの人々に活用されている公園です。

所在地 函館市見晴8

